

学 籍 番 号	名 前

**【配布資料】**

香川 せつ子、「医学と女子高等教育の相克 ―ヴィクトリア期における「女性の身体」―」、望田幸男・田村栄子(編)、『身体と医療の教育社会史』、昭和堂、2003年、258-285頁。

**【設問】** (注：Ⅰ、Ⅱは配布資料の内容に即して答えよ)

Ⅰ、ヴィクトリア期の社会におけるジェンダー化された二項対立（ヴィクトリア期の性差観）に関する言説を5つ挙げよ (注：それぞれ二項対立の構図になっていること)

男 性	女 性
例) 医 者 (男性の医師)	患 者 (女性の患者)
①	
②	
③	
④	
⑤	

Ⅱ、近代医学が構築した「科学的」女性論とはどのようなものであったか： \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

Ⅲ、「性による差異の大半が人為的につくられ操作された可変的な差異である」(258頁)

という点に関して自由に述べよ(配布資料に即さずともよい)： \_\_\_\_\_

